

人物探訪

経営者の人となりを知る

有限会社アイソリューション
代表取締役 中澤 純一 氏



Q1. 小さい頃はどんなお子さんでしたか？
中澤：親を始め周りの人たちの話を聞くと、かなり変わった子どもだったようです(笑)。子どもの頃は野球が好きで、中学くらいまでは明けても暮れても野球をやっていました。あとは小学校の高学年の頃に音楽に目覚めて、洋楽を聴いていましたね。人と同じことをするのが嫌いで、幼稚園の頃もフォークダンスを嫌だと言ったり、上田わっしょいには一度も参加した経験がありません。

Q2. 趣味や休日の過ごし方を教えて下さい
中澤：スポーツジムに行ったり、あとは年甲斐もなくクラブミュージックが好きで、東京のライブやクラブに行っています。最近ではパソコンで簡単に音楽が作れるので、自分で作ったり、選曲をしったりすることが趣味ですね。これから始めたいと思っているのが口

ドライブ。あまり縁がなかったアウトドアにもチャレンジしてみようかなと思っています。

Q3. これまでの経緯を教えてください
高校、大学、就職とずっと東京で、十年くらいビジネス雑誌の出版の仕事をしていました。三〇歳を過ぎた頃、そろそろこっちに戻ってきて跡を継がないかという打診が母からありました。元々母の祖父がこの仕事をしていたので、私で三代目になります。正直最初は軽い気持ちでこの仕事を継ぎました。

ところが、仕事を始めたタイミングで保険業界が自由化になり、これまで右肩上がりの時代だったのが、そういう訳にはいかなくなり、そこで自分の考えが甘かったと気づかされましたね。自由化が厳しいタイミングであり、逆にチャンスでもあったという感じはしています。でなければ法人化しようとは思わなかったし、大勢の人と働く機会を与えてくれたという意味では非常にいいタイミングでした。後を継いで最初の二年は、保険会社の研修生として保険業務の基本的なことを学びました。母と一緒に法人を立ち上げたのが平成一四年、今年十一年目になります。

Q4. 社員に対してどんな考えで向き合っていますか？

中澤：お客さま第一とよく言いますが、お客さまに満足を提供するには、そこで働いている従業員が満足して働いていないと当然満足は提供できない。まずは従業員に満足して働いてもらうことが第一。ヤル気を起こして働いてもらうためには目標が必要でしょうし、自信を持つてもらおうと仲間やお客さまも大切にできる。私の役割は能力を引き出すことだと思っています。

単純に仕事の質を高めるといってだけで

はなくて、価値のある目標というものを定める。これが究極の人材育成だと思っています。あと、つくづく思うことはコミュニケーションの大切さですね。大体ハレーションが起きているのはお互いのコミュニケーションが不足しているからで、これは人間関係の鉄則です。さよ。こちらの考えをきちんと伝えれば相手だってわかってくれる。あとは必要以上にも多くを求めない。自分の思いを一〇〇%受け入れてもらおうと思わず、どこかで折り合いをつけるということを学びました。

Q5. 今後の会社のビジョンを聞かせて下さい

中澤：セールス全般に言えることかもしれないですが、保険の営業は、「営業一人対顧客」の関係で完結していることが多い。

事故が起きてお客さまが電話をかけてきても、営業マンが出払っていて繋げないということが残念ながら多いので、担当に関係なくお客さまは会社でお守りしましょうというスタンスをとっています。オフィス業務の事務員は営業マンと比べると、どうしても商品知識が不足しているのだから難しいですが、その分は勉強会などで商品知識のスキルアップに極力時間を割いています。

まだ完璧には実現できていませんが、「同じレベルのサービスを提供すること」というサービス体系をつくるのが私の目指している姿です。あとは、これからの時代、今のサービスに付加価値をつけていかないと生き残っていかれません。例えば、従業員さんのマイカー通勤の管理、災害補償規定の雛形を提供させて頂く、そういう保険以外のサービスの提供ですね。中小企業の経営者は本業が忙しくて、会社のリスク管理まで手が回らないことも多いので、何かがあった時はもちろん保険ですが、何か起きる前の段階の手助けを

少しずつでも提供できるよう努めています。あくまでも直接提供するサービスは保険を使ったソリューションですが、税務について相談したいということであれば税理士さんを紹介する、人材育成であればシードさんを紹介する、いろんなところと提携して、うちが窓口になって問題を解決できるようなビジネスモデルを作っていきたいと思っています。会社として、お客さまに満足頂ける均一的なサービスを提供しようということですので、これから更に組織力に磨きをかけて強力にしていくこと。それと同時に、地域でお仕事をさせて頂いているわけですから、何かしらのカタチで地域に貢献していきたいと思っています。

Q6. SKOP異業種交流会に参加してみた感想を聞かせてください

中澤：上田という地方都市で、異業種の方々と一緒に学習をするような機会はなかなか無いので、こういった場を提供して頂いてありがたく思います。同業種では結局目線がみんな同じになってしまう。その点異業種の方々は普段気づかない点を気づかせてくれます。こういう切り口、考え方があるんだという気づきがあります。今後は社員も一緒に参加できればいいなと思っています。あと、なかなか全講座参加ということは難しいと思うので、例えばネットで、オンライン、もしくはビデオで受講できるような方法があるともっと良いかなと思います。いざ学ぶとなると5・6回だとちょっと少ないなとも思いますね。